

## 【20年間のプログラムをふりかえって】

鈴木 優

私はこの20年間、つくば古典音楽合唱団音楽監督としての仕事のひとつとして演奏曲目の選定にあたってきました。創立時（1988年4月）に起草された活動指針には「主に西洋の宗教曲を取り上げ音楽芸術を追求し、同時にその精神的背景を探ることにより心を豊かにしていく」という目的が掲げられています。同指針にはレパートリーとして「まず16世紀のビクトリアやラッソから初期バロックのシュッツ、モンテヴェルディに至る範囲を中心とし、将来はバッハ、モーツァルトなどにも取り組む」とあります。当時、第1回演奏会の出演者数は23名でした。団員数が60名前後になった2004年にはこの部分は「16世紀後半から現代にわたる幅広い時代の宗教音楽、世俗音楽」というように、より拡大された形に改定されています。合唱団の規模に応じて活動指針の変化はあっても、私たちは一貫してヨーロッパの合唱音楽の伝統をふまえた、質の高い音楽を演奏することを目指してきました。

私たちのようなタイプの合唱団のレパートリーとして考えられるのは1300年代から現代までの、約700年間の音楽です。グレゴリオ聖歌まで考慮に入れれば、さらに500年の歴史をさかのぼることになります。それぞれの時代に魅力的な音楽がありますが、選曲に当たってはその幅広い選択肢の中から、音楽的難易度や編成、さらには運営上の予算といった問題を考慮します。予算によって使えるオーケストラの編成、ソリストの人数が決まってきます。

音楽は時代によって、また作曲家の生まれ育った国、地域によって、違ったスタイルのものとなります。ルネサンス様式とバロック様式の音楽では、音楽の成り立ち方がまったく違います。また音楽は言語と密接な関係にありますので、同時代の作曲家でも出身地や活動した国の違いによって異なった傾向の音楽を生み出します。こうして多様なスタイルの音楽が存在することになりますが、ひとつの合唱団があらゆるスタイルの音楽に対応できるわけではありません。合唱団を指導する私自身も同様です。その中で、多くのスタイルの音楽を味わう喜びと、ひとつのスタイルの音楽を深く追求していくことのバランスをとることも選曲という作業において重要なことと考えます。

これまでの22回の演奏会でとりあげた作曲家の数は37人でした（民謡の編曲者は除く、作曲者不詳の曲が1曲）。これを作曲家の生まれた国、時代別に集計すると以下のような結果になりました。

### 1. 作曲家の生まれた国別

国名	(人)
ドイツ	17
イタリア	9
オーストリア	5
スペイン	2
フランス	2
イギリス	1
エストニア	1

### 2. 生年別

生年代	(人)
1400-	1
1500-	13
1600-	7
1700-	6
1800-	7
1900-	3

### 3. 音楽史的区分

区分	(人)
ルネサンス	8
バロック	13
古典	3
ロマン	9
近・現代	4

### 4. 取り上げた回数 Best 5

順位	作曲家名	(回)
1	J.S.バッハ	12
2	シュッツ	7
3	パレストリーナ	6
4	ビクトリア	4
	モーツァルト	4

作曲家の生まれた国に関してはドイツ語圏であるドイツとオーストリアの作曲家が合計22人で、全体の約6割を占めています。ここには私の個人的な嗜好が反映しております。1500年代に生まれた作曲家は前半であれば後期ルネサンス、後半であれば初期バロックに属します。合唱団創立時にレパートリーの中心と考えたのは、この年代に属する作曲家の作品でした。音楽史的区分はおおざっぱですが、やはり合唱団の音楽的志向性の特徴を表しています。古典派の作曲家の数は少ないのですがハイドン、モーツァルトの作品は演奏会のメインとなる曲を取り上げています。取り上げた回数は3分の曲でも3時間の曲でも1回は1回ですので、公平な統計とはいえませんがここに並んだこの5人の名前を見ますと、なんとか良い演奏をしたいと取り組んできた20年の日々を思って感無量なものがあります。

プログラム・ノートの文章をあらためて読みますと稚拙な部分もあり、また合唱団のホーム・ページを通じて聴くことができる過去の演奏にもつたないものもあります。しかしこうして振り返ってみますと試行錯誤の積み重ねである当合唱団の歴史も意義深く誇りに思えます。今後もゆっくりとした歩みではありますが、音楽が共にあるより良い人生を皆様と分かち合っていきたいと願います。